

[別紙－1]

海洋文化館の映像ホールリニューアルについて

国営沖縄記念公園事務所 工務課 ◎森田陽弘
○大城幸朗

1. 目的

海洋文化館は沖縄国際海洋博覧会の政府出展施設（恒久的博物館）として設置された。日本、東南アジア、南太平洋地域の海洋文化に関わる資料を収蔵・展示している。

世界的に貴重な資料もあるが、展示内容、展示形態を更新しないまま30年を経過し、資料価値が十分発揮されていない。展示ホール、映像ホール等の海洋文化館内各施設の老朽化も進んでいる。当公園の入園者の増加にもかかわらず、入館者数は減少している。

こうした状況を踏まえ、その資産価値を最大限に発揮できるように、海洋文化館のリニューアルを行う。

2. 内容

海洋文化館については、海洋博公園基本計画（平成20年5月更新）において、今後の整備、管理・運営の基本計画が示された。

同基本計画に基づき、平成22年度、海洋文化館へ映像ホールを増築する工事に着手し、平成23年6月下旬に開館を行う。続けて海洋文化館を閉館してリニューアル工事を行い、平成24年度中の開館を予定する。

本発表は、海洋文化館の各施設のうち、先行して開館する映像ホールの整備について紹介するものである。

3. 結論

旧映像ホールでは、博覧会当時の海洋文化を紹介する映像プログラムは劣化のため撤去され、映像ホールと展示ホールの一体性が薄らいでいた。プラネタリウム機器の老朽化も進んでいた。

新映像ホールでは、展示ホールと連動した海洋文化等の紹介、沖縄でみられる星空のプログラムを上映し、リピーターが楽しめ、学校・団体等が学習等で活用できるホールとして整備した。

4. 今後の問題点

新映像ホールの開館後は、入館者へニーズ調査等を実施し、今後のコンテンツ制作等へ反映させたい。